

いつも大変お世話になっています。

テレビや新聞は、景気のいい話ばかり報道しています。

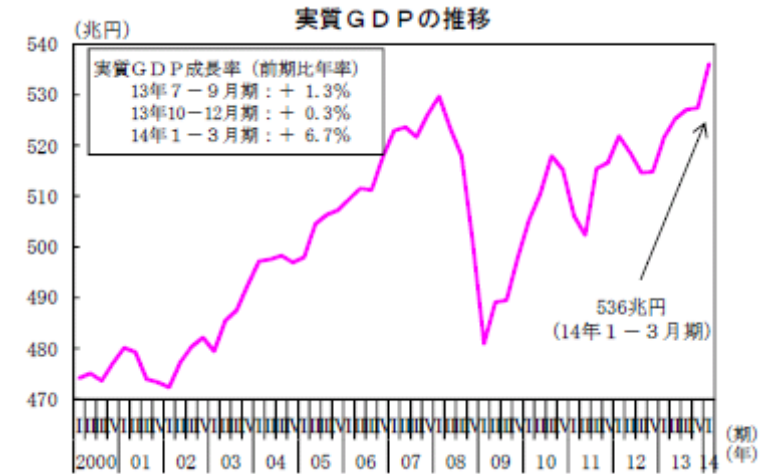
しかし、**地元を歩くと、中小企業の方々からは悲鳴の声があがっています。「燃料代で大変だ」「地域にまで好景気は及んでいない」「公共事業をもらえるのは、建設業界の1/3くらいで、それ以外の中小は厳しい」。**

年金生活者にとっては、物価がどんどん上がるのは厳しい。働く方々も、安倍総理が2%の物価上昇を目指していますから、同じくらい給料も伸びないと今の生活水準を維持できない。しかし、これは、経営側にとっては、おそらく無理な要求でしょう。

しかも、物価上昇のほとんどの原因は、円安によるガソリン・電気代や原材料代の高騰です。消費が増えて物価が上がるのならともかく、これは経営側にとってはコスト負担が増えるだけの話です。

もちろん、輸出企業は為替効果で儲かりますが、これも一回限り。問題は、ここまで円安になっても、実は、輸出の数量は増えていない。安くなっても、外国は日本製品を買う量を増やしていないのです。

そもそも右のグラフをみれば、一目瞭然。**アベノミクス以前から、2008年9月のリーマンショックの後、2011年の東日本大震災で一度つまずくものの、景気は少しずつ回復をしてきたのです。**



アベノミクスで、何が大きく変わったのか。それは、1) 気分、2) 株価、3) 円安です。消費も投資ももちろん増えたりしていますが、これは主に増税前の駆け込み需要です。

ということで、ほっといても、ある程度景気は回復をしていたところ、アベノミクスのいい面は、**明るい雰囲気をつくったこと。他方、株は、外国投資家が一時的につり上げましたが、今年に入って、皆さん引いていますので、せいぜいプチ・バブルといったところでしょう。円安は、行き過ぎた円高は是正すべきだと私も思いますが、ここまでやってしまったら(70円から100円!)、コスト増で、中小企業や年金生活者に打撃です。**

これが、ざっと私の評価です。次号では、本来のあるべき経済対策について私の考えを申し上げます。